



大田区教育研究推進校としての研究 生徒一人一人が「学びのエキスパート」を目指す授業づくり

・アセスメントと脳科学(MI = Multipul Intelligence理論)を活用しながら、個に焦点を当てた授業実践を積み重ねていく。

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連帯や工夫
* 学習効果測定の結果分析を基に、生徒一人一人に対する学習カウンセリングを充実させていく。 * 授業改善に向け、電子黒板・タブレットPC等のICT機器の活用を図りながら、個別最適化を目指していく。	* 数学・英語においては、習熟度別指導・習熟度を考慮した少人数指導を実施し、スモールステップできめ細かに指導を進めていく。 * 放課後・土曜日・夏季休業日に補習教室を行い、基礎学力の定着を図る。	* MI理論に基づき、生徒一人一人の知能を活性化させる授業を構築する研究を推進する。 * 学校集団調査(hyper-QU)や学校適応感尺度調査(ASESS)等の調査結果を分析し、授業改善に結び付けていく。	* 新学習指導要領の新たな観点に基づく評価についての研究を深め、評価の精度を高めていく。 * 生徒及び保護者への説明責任を十分に果たすことのできる評価とするために、評価活動の工夫・改善に努めていく。	* MI理論を活用した授業を進めることにより、学びに向かう姿勢を醸成し、主体的な家庭学習に結び付けていく。 * 家庭学習の充実を図るため、学校での指導に加え、保護者会等において家庭の協力を仰いでいく。